

趣味の住宅

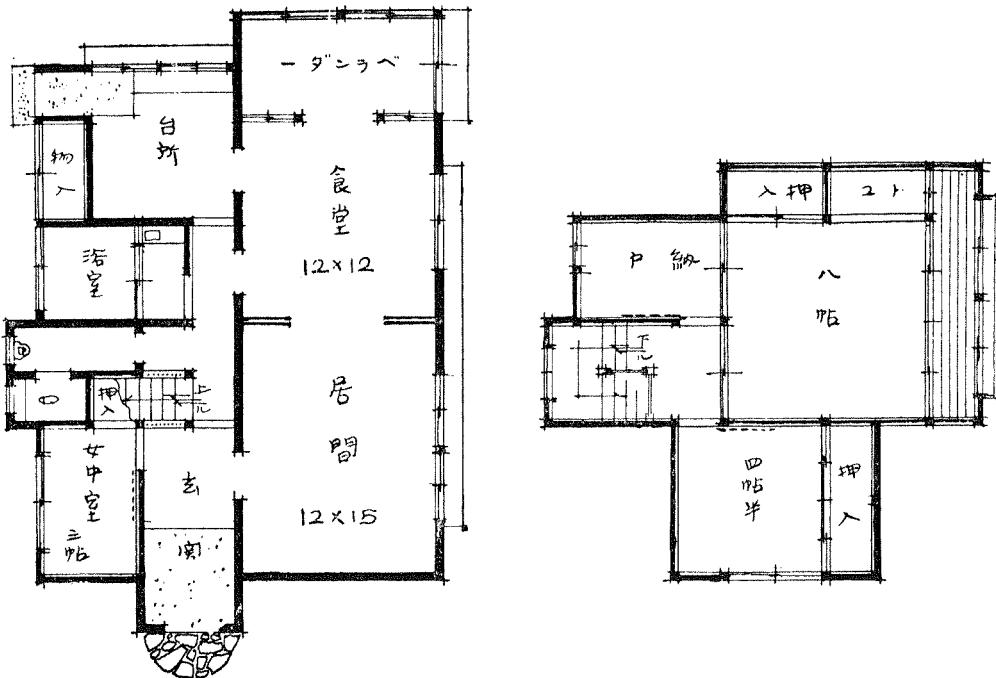
建築として自分の趣味から言はば、何か文化的小住宅の實例が欲しいと思つたが、殘念ながら編輯締切間際になつてはそれも得られない、徒らに大ビルディングの工事寫眞も我々には餘り趣味が遠い。

雪さけの午後フト思ひ付いて記者は駿河臺の文化學院に能瀬技師を訪ねた。

能瀬氏は文化學院の建築部の技師である、學院の門の傍に小さい事務室があつて、其室内の壁には氏の物された、住宅圖案が數多く貼付けてある。其水彩畫やペン畫はまことに藝術的な趣味のある住宅圖案であつた。

記者は實例としての寫眞を希望したのであるが、直ぐの間に合はないので、此の二葉の建築圖案を掲載しました。

此の二葉の圖に依つて工事畫報は嚴冬の枯林に一枝の青葉を得た思ひです。



趣味の住宅プラン

圖に就ての説明は記者に任されたのですが、記者は自分の我流で此の圖案の趣旨を害する事を思ふて何も説明をつけません。唯趣味の住宅として自由な観察と断案を讀者に御願ひします。尙本圖に關しての御紹介は東京市外野方町下沼袋一五八〇能瀬久一郎氏へ御願ひします。

次號から又能瀬氏の藝術味豊な趣味の住宅を二三葉づ、御紹介致し度いと思ひます。